

標準施工要領書

水性軽モル



**水性軽モルと混練水は必ず計量してください
水を入れすぎると本来の作業性を発揮できません**

ヤブ原産業株式会社

〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷546

TEL 048 (297) 4111

1. 特長

- 超軽量でエポキシモルタルの様な抜群の作業性
- 高い自着力でプライマー不要[※]
- 70分で硬化する速硬型
- 水で混練する1材型補修材でシンナー不要
- 溶剤不使用で無臭、環境に優しい
- 下地が乾いていなくても施工できる

※欠損補修時。爆裂補修時は「水性軽モル防錆プライマー」を使用

2. 下地について

- コンクリート、モルタルの欠損、爆裂が対象です。
- 塵埃等の汚れは、清掃、水洗いしてください。

3. 工程表

工程	材料名	調合	使用量	施工器具
処 理 地	清掃・ケレン	—	—	ブラシ類 刷毛
下 塗 り	水 水性軽モル防錆プライマー [※]	—	300g/m ²	刷毛
混 練 塗 布	水性軽モル	100	10cm角×深さ2cm の欠損に対して 水性軽モル:200g 水:54g	量り 計量カップ 保護手袋
	水	27		

※爆裂補修の場合

4. 施工方法

4-1 下地処理

- 施工箇所の脆弱部分をはつり取り、塵埃等を刷毛、ブラシ等で取り除き、清掃します。
- 鉄筋腐食部のケレンを十分に行い、清掃します。

4-2 下塗り

- (欠損補修の場合)刷毛等で水打ちを十分に行います。
- (爆裂補修の場合)水性軽モル防錆プライマーを300g/m²塗布します。

4-3 混練

- 混練作業は必ず量りで計量して行ってください。
- 水性軽モル100に対して、清水27で混練します。
- 水分が少なく、まとまりがないような状態になりますが、手でこねるとちょうどよい粘度になります。



※手で握ってまとめた時に、紙粘土のような質感が適切な状態です。一般的なモルタルのような柔らかさ(ジェラート状)になるまで水を加えてしまうと、本来の作業性が発揮されません。

4-4 埋め戻し、成形

- (欠損補修の場合)下地が乾いていないことを確認し、凹凸にすり込むように指先で入念に下擦りを行い、追っかけで埋め戻します。
- (爆裂補修の場合)プライマーが乾燥する前(約15分以内)に埋め戻します。
- 材料を下地の凹凸に食いつかせるように圧力をかけながら充填します。
- 補修箇所を覆うように大きめに充填した後、金ゴテ、ヘラ等で余剰分を切り取り、表面を成形します。
- 施工後70分程度で硬化します。(気温20℃)

※仕上げに水で馴染ませることができですが、水を多く加えすぎると、付着力低下や痩せ、ダレの原因になります。刷毛はよく水を切って1～2往復で仕上げてください。

5. 施工上の注意

- 既調合品なので水以外は加えないください。
- 硬化時間は気温により変化しますので、ご注意ください。夏(35℃)は、混練後30分程度で硬化します。冬(10℃)は、130分程度となります。
- 手で施工する場合は、必ずゴム製等の水等が浸みこまない保護手袋を着用してください。材料はアルカリ性が強いので、肌荒れ、炎症のおそれがあります。
- 作業時に粉体を吸い込まないようにしてください。眼に入らないようにしてください。必要に応じて保護マスク、保護メガネを着用してください。
- 内容物や容器の廃棄は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託してください。

6. 荷姿

材 料 名	入 目
水性軽モル防錆プライマー	500g
水性軽モル	1L
	9L
	14L